平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年8月5日

上場会社名　ユニチカ株式会社　　上場取引所　東
コード番号　3103　URL　http://www.unitika.co.jp/
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 安江　健治
問合せ先責任者 (役職名) 経理部長　(氏名) 石川　省二　TEL 06-6281-5721

四半期報告書提出予定日　平成25年8月9日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　無
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	38,233	△1.7	1,853	27.4	1,661	196.9	1,446	―
25年3月期第1四半期	38,883	△12.7	1,454	△52.2	559	△73.7	59	△93.1

(注)包括利益　26年3月期第1四半期　2,057百万円　(164.7%)　25年3月期第1四半期　777百万円　(△26.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	2.51	―
25年3月期第1四半期	0.10	―

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第1四半期	261,609	23,375	7.6
25年3月期	255,054	21,317	7.0

(参考) 自己資本　26年3月期第1四半期　19,759百万円　25年3月期　17,809百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	―	0.00	―	0.00	0.00
26年3月期	―				
26年3月期(予想)		0.00	―	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成26年 3月期の連結業績予想(平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	77,500	1.8	3,000	29.4	1,600	227.9	900	―	1.56
通期	165,000	3.0	7,500	35.9	4,000	3.8	2,000	―	3.47

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期1Q	577,523,433 株	25年3月期	577,523,433 株
② 期末自己株式数	26年3月期1Q	768,761 株	25年3月期	766,802 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期1Q	576,755,443 株	25年3月期1Q	575,501,163 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… 3
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 3
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 3
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 3
３．継続企業の前提に関する重要事象等 …… 3
４．四半期連結財務諸表 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
四半期連結損益計算書
第１四半期連結累計期間 …… 6
四半期連結包括利益計算書
第１四半期連結累計期間 …… 7
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 8
（継続企業の前提に関する注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 8
（セグメント情報等） …… 8

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第１四半期（平成25年４月１日～平成25年６月30日）のわが国経済は、脱デフレを目指す現政権の政策への期待感から回復基調となったほか、円安ドル高を背景とする輸出環境の回復、輸入品に対する国産品の競争力回復など、改善の兆しは見られましたが、雇用情勢、所得環境への不安は解消されず、依然として先行き不透明な状況で推移しました。このような状況の下、売上高は38,233百万円(前年同四半期比1.7%減)となりましたが、高分子事業を中心に販売数量がおおむね回復してきたため、営業利益は1,853百万円(同27.4%増)となりました。また、為替差益などの営業外収益や投資有価証券売却益などの特別利益の計上により、経常利益は1,661百万円(同196.9%増)、四半期純利益は1,446百万円(前年同四半期は59百万円の利益)となりました。

セグメント別の状況は次のとおりです。

【高分子事業】

フィルム事業では、包装分野は本格回復には至っていないものの需要の回復が続いており、販売数量は伸長しました。工業分野は一部で回復が見られましたが、市況の回復は遅れています。全体としては、原燃料価格の上昇に伴う製品価格改定の効果発現までのタイムラグもあり、収益は減少しました。

樹脂事業では、自動車用途が主要分野の一つであるナイロン樹脂は好調に推移し、情報端末機器用途などのポリアリレート樹脂や前期に本格的な販売を開始した環境配慮型の水性エマルション「アローベース」も堅調に推移しました。

不織布事業では、ポリエステルスパンボンドは、農業用途、生活資材用途、土木用途の販売数量が増加するとともに、輸出の採算改善により収益は回復しました。また、コットンスパンレースはウェットシート用途の需要回復などにより堅調に推移しました。

以上の結果、高分子事業の売上高は16,113百万円（前年同四半期比6.4%増）、営業利益は1,879百万円（同9.7%増）となりました。

【機能材事業】

ガラス繊維事業では、産業資材分野の建築・土木用途などは堅調に推移し、また電子材料分野のＩＣクロスでは情報端末機器用途が堅調に推移しました。ガラスビーズ事業では、ロードマーキング用途、工業用途は需要回復により堅調に推移しましたが、反射材用途は欧州向けの輸出が減少したため低調に推移しました。また、活性炭繊維については、水栓内蔵型などの浄水器用途は引き続き堅調に推移し、回復の遅れていた廃液処理用途や自動車用途も復調したため堅調に推移しました。

以上の結果、機能材事業の売上高は3,487百万円（同0.1%減）、営業利益は411百万円（同101.0%増）となりました。

【繊維事業】

産業繊維事業では、ポリエステル高強力糸は建築・土木用途の需要の本格的な回復には至りませんでしたが、ポリエステル短繊維はバインダー繊維の差別化品の売上が伸長するとともに、輸出の採算も改善しました。ビニロン繊維は、アスベスト代替のセメント補強用途などでコストダウン施策の効果発現がありましたが、ビニロン紡績糸の産業資材用途で在庫調整の影響を受け販売数量が減少したため、採算の改善には至りませんでした。

衣料繊維事業では、前期まで好調が続いていたユニフォーム分野の需要が調整局面を迎え、スポーツ・レディス分野の機能素材もやや低調に推移しましたが、海外など一部の子会社では市況の回復などから収益の改善が進みました。

以上の結果、繊維事業の売上高は16,096百万円（同7.4%減）、営業利益は0百万円（同98.9%減）となりました。

【その他】

生活健康事業では、健康食品、飼料原料は伸び悩みましたが、機能性食品原料はアラビノースやラクトビオン酸の伸長などにより堅調に推移しました。メディカル事業では、医用材料分野は主力の循環系カテーテルの新製品の採用が増えるなど売上が伸長し、生化学分野は酵素の売上は回復しましたが、診断薬は在庫調整などによりやや低調に推移しました。

不動産関連事業では、マンション販売などが計画どおりに進捗しました。

以上の結果、その他の売上高は2,535百万円（同11.2%減）、営業利益は194百万円（同30.7%増）となりました。

（２）財政状態に関する説明

総資産は、前連結会計年度末に比べ6,555百万円増加し、261,609百万円となりました。これは、主として売上債権が増加したことによります。負債は、前連結会計年度末に比べ4,498百万円増加し、238,234百万円となりました。これは、主として借入金が増加したことによります。純資産は、前連結会計年度末に比べ2,057百万円増加し、23,375百万円となりました。これは、主として利益剰余金が増加したことによります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成25年５月14日に公表いたしました第２四半期連結累計期間の連結業績予想につきましては、見直しを行いました。通期の連結業績予想の修正はありません。なお、詳細につきましては、本日、別途「第２四半期（累計）連結業績予想の修正に関するお知らせ」で開示しております。

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において、当期純損失10,875百万円を計上した結果、株主資本が18,663百万円となり、一部の長期借入金（前連結会計年度末残高4,600百万円）の借入契約に付されている財務制限条項（決算期及び第２四半期の末日における株主資本基準等）に抵触しておりますが、各金融機関の判断の結果、期限の利益を喪失させる請求権は行使されない合意が形成されており、当第１四半期連結会計期間においても変更はないため、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

今後は、収益の抜本的な改善を図るべく、事業構造改善及び固定費削減に取り組み、高分子、機能材分野を中心とした成長分野への経営資源の集中を図り、事業力の改善・強化に向けた成長戦略を推進し、業績の回復に努めてまいります。

４．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成25年３月31日）	当第１四半期連結会計期間 （平成25年６月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,668	19,572
受取手形及び売掛金	36,339	40,686
たな卸資産	39,776	41,935
その他	4,660	4,417
貸倒引当金	△170	△179
流動資産合計	100,274	106,432
固定資産		
有形固定資産		
土地	103,163	103,200
その他（純額）	45,265	45,956
有形固定資産合計	148,428	149,157
無形固定資産		
のれん	14	13
その他	800	890
無形固定資産合計	815	904
投資その他の資産		
その他	5,860	5,446
貸倒引当金	△325	△330
投資その他の資産合計	5,535	5,115
固定資産合計	154,779	155,177
資産合計	255,054	261,609

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成25年３月31日）	当第１四半期連結会計期間 （平成25年６月30日）
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	22,067	20,887
短期借入金	68,433	68,926
1年内返済予定の長期借入金	32,925	33,512
未払法人税等	756	262
賞与引当金	1,567	866
事業構造改善引当金	1,087	918
その他	11,724	12,024
流動負債合計	138,562	137,397
固定負債		
長期借入金	65,162	70,670
退職給付引当金	7,752	8,081
役員退職慰労引当金	53	26
その他	22,205	22,057
固定負債合計	95,173	100,836
負債合計	233,736	238,234
純資産の部		
株主資本		
資本金	26,298	26,298
資本剰余金	4,385	4,385
利益剰余金	△11,976	△10,529
自己株式	△44	△44
株主資本合計	18,663	20,110
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	114	156
繰延ヘッジ損益	6	5
土地再評価差額金	2,979	2,979
為替換算調整勘定	△3,954	△3,492
その他の包括利益累計額合計	△854	△350
少数株主持分	3,508	3,615
純資産合計	21,317	23,375
負債純資産合計	255,054	261,609

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第１四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第１四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年６月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自　平成25年４月１日 至　平成25年６月30日）
売上高	38,883	38,233
売上原価	31,599	30,839
売上総利益	7,283	7,393
販売費及び一般管理費	5,829	5,540
営業利益	1,454	1,853
営業外収益		
受取利息	27	28
受取配当金	51	47
為替差益	－	450
その他	233	230
営業外収益合計	312	757
営業外費用		
支払利息	750	702
持分法による投資損失	41	3
その他	415	243
営業外費用合計	1,207	949
経常利益	559	1,661
特別利益		
投資有価証券売却益	－	275
負ののれん発生益	48	－
特別利益合計	48	275
特別損失		
固定資産処分損	84	80
投資有価証券評価損	137	－
その他	128	108
特別損失合計	349	188
税金等調整前四半期純利益	258	1,747
法人税、住民税及び事業税	92	168
法人税等調整額	119	123
法人税等合計	211	291
少数株主損益調整前四半期純利益	46	1,456
少数株主利益又は少数株主損失（△）	△13	9
四半期純利益	59	1,446

（四半期連結包括利益計算書）
（第１四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第１四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年６月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自　平成25年４月１日 至　平成25年６月30日）
少数株主損益調整前四半期純利益	46	1,456
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△23	42
繰延ヘッジ損益	△19	△1
為替換算調整勘定	775	560
持分法適用会社に対する持分相当額	△2	－
その他の包括利益合計	730	601
四半期包括利益	777	2,057
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	691	1,950
少数株主に係る四半期包括利益	85	107

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

セグメント情報

Ⅰ　前第１四半期連結累計期間（自　平成24年４月１日　至　平成24年６月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他（注１）	合計	調整額（注２）	四半期連結損益計算書計上額（注３）
	高分子事業	機能材事業	繊維事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	15,148	3,489	17,390	36,028	2,855	38,883	－	38,883
セグメント間の内部売上高又は振替高	5	2	61	69	579	648	△648	－
計	15,153	3,491	17,452	36,097	3,434	39,532	△648	38,883
セグメント利益	1,712	204	90	2,008	148	2,157	△702	1,454

（注）１．その他には、環境事業、メディカル事業、生活健康事業、不動産関連事業等を含んでおります。

２．セグメント利益の調整額△702百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。

３．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとののれん等に関する情報

（重要な負ののれん発生益）

高分子事業において負ののれん発生益を計上しております。これは、当社が追加取得した寺田紡績株式会社の株式の取得原価が、追加取得により減少する少数株主持分の金額を下回ったことにより発生したものであります。なお、当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第１四半期連結累計期間においては48百万円であります。

Ⅱ　当第１四半期連結累計期間（自　平成25年４月１日　至　平成25年６月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他（注１）	合計	調整額（注２）	四半期連結損益計算書計上額（注３）
	高分子事業	機能材事業	繊維事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	16,113	3,487	16,096	35,698	2,535	38,233	－	38,233
セグメント間の内部売上高又は振替高	4	16	49	69	412	482	△482	－
計	16,118	3,504	16,145	35,768	2,947	38,715	△482	38,233
セグメント利益	1,879	411	0	2,292	194	2,487	△633	1,853

（注）１．その他には、環境事業、メディカル事業、生活健康事業、不動産関連事業等を含んでおります。

２．セグメント利益の調整額△633百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。

３．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。